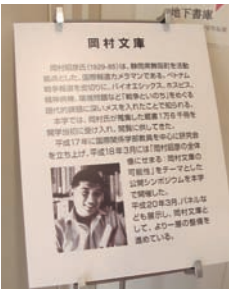


附属短大部図書館とも連携強化

静岡市駿河区にある静岡県立大学のキャンパスは、小高い丘の地形を生かし、古代ローマのナヴォーナ広場を連想させるような空間が基調となっている。全てレンガ造りで、左右対称に建ち並ぶ校舎群の道を登り切ると、直径 70 m の半円形広場となっており、振り返れば眼下に街が、右手には富士山が見渡せる。そんなビューポイントの一角に付属図書館がある。



図書館を訪ねて 一静岡県立大学付属図書館



岡村氏が収集した書籍や著書などを整備

ほぼ同じタイトル数が維持されていること。文献

情報は常に新しいものが求められるが、電子ジャーナルであれば、タイムラグもなく情報が得られることから、他大学と同様に、自然科学系あるいは食品

写真家の「岡村文庫」も併設

化学系からの要望が多いという。

閲覧関係の施設としては開架閲覧室 2、自由閲覧室 1、飲み物なども持ち込める休憩室 1、研究閲覧室 2、学術情報検索室 1、10

人程度が同時に入れるグループ閲覧室 4、ドア付きの 1 人用個室「キャレル」6、そのほか各フロアには閲覧用に 530 に及ぶテーブルと椅子のセットが用意されている。

また A V ライブラリーも充実。30 カ国 130 チャンネルの海外衛星放送が視聴でき

る。A V ライブラリーの部屋には、大画面テレビを含めた A V セットが、3 台並んでいるにもかかわらず、隣の音声はほとんど響き合わない「超指向性スピーカー」が威力を発揮している。

静岡県立大学には薬学部をはじめ、食品栄養科学部、国際関係学部、経営情報学部、看護学部の 5 学部のほかに、短期大学部（小鹿キャンパス）がある。図書館は 2008 年 4 月から、大学の法人化を機にネットワーク環境を整え、県立大を“中央館”、短大部を“分館”として結び、学生・教職員が図書館を活用しやすいよう範囲を広げた。

“中央館”は地下 1 階地上 3 階建て、総床面積は約 6000㎡。所蔵書籍は 35 万冊ほどで、“分館”分と合わせると約 44 万冊に及ぶ。蔵書としては、自然科学系 27%、社会科学 23%、文学 11%、言語 6% が多い。また、海外からの留学生も多いことから、英、米、独、仏、露、中国、韓国、台湾、フィリピンなど世界各国の新聞も用意されている。

また、独自の蔵書として世界的に活躍した報道写真家の岡村昭彦氏（1929～85 年）が収集したコレクション「岡村昭彦文庫」が約 1 万 8000 冊に及ぶ。岡村氏は世界の紛争地帯を取材した国際報道写真家だが、「南ベトナム戦争従軍記」をはじめ、多数の著書の執筆者としても知られ、その関連書籍と共に、岡村氏自身が静岡県浜松市を拠点に世界的に収集した蔵書が並ぶ。

また、研究者にとって必須の電子ジャーナルは、バック契約も含め、現在 9000 タイトルほどあり、毎年契約内容を見直しつつ、



広々とした閲覧設備で自習に励む学生たち

入館する際は、学生証（職員証）をバーコードリーダーにかざす。入館のための I D カードを兼ねている。学内の情報システムと連携し、効率化を図っている。

また、利用時間については、今年度から試行的に、授業のある日は 22 時までと、かなり遅めにしている。実は社会人院生の授業が 21 時 40 分頃まであり、これに対応したとのこと。休講日の平日は 19 時までと、年間を通した利用実態に合わせ、メリハリのある

開館時間を目指している。

今後の展開としては、「大学図書館が、個

人的な受け身の学習のための利用とは、異なった形で利用される傾向にある」ことから、来年度、設備面を中心に改修を行う予定という。

具体的にはネット上の情報を利用しながら、グループでの使用、プレゼンテーションなど、多目的な利用が可能になるよう計画を進める意向だ。

一方で、閲覧席は 3 人掛けなど、本来的には複数の利用を想定した設備だが、“プライバシー”の観点や、「満席」に至らない人数でも、実質的に“満席状態”になっていることが、他の図書館と同様、悩みの種となっている。

そこで、パーテーションを強化するなど

の対応も図る方針だ。また、最近では学習・研究の場でも、ネット活用が日常化している。同館では、学内セキュリティとの関係もあり、パソコンの持ち込みは認めていない。そこで、館内に設置する貸し出しパソコンを、増設していくこととしている。

同大を含む静岡市の谷田丘陵地帯及びその周辺地域には、県立美術館、県立中央図書館、静岡県埋蔵文化財調査研究所、静岡県舞台芸術センター、グランシップがあり、教育・文化ゾーンを形成している。それら機関が相互協力して、「ムセイオン静岡」として文化・芸術・教育を学ぶ場を提供する活動をしている。同図書館としても、何らかの形で参画する方向で考えているという。



要所要所に閲覧設備を配置

文化・芸術・教育を発信

「ムセイオン静岡」で連携